

駐獨感想

駐獨特命全權大使

永井松三

茲に謹んで明治天皇の御治世に於ける我國學界の狀況を回顧して見ると、その長足の進歩は著しいものであるが、これは獨逸の提撕・援助に負ふ所が少なくないのであつて、即ち日獨兩國の關係は、學問上甚だ密接であるのである。さう云ふわけであるから、今日の獨逸が如何なる状態にあるかを語るのは、必ずしも本會の事業と縁の存せぬ事ではないと思ふ。

右申した如く、我國の明治時代に於て獨逸は日本の學術の進歩に好感化を及ぼしたのであるが、獨逸今日の學界は、概括して申すと甚だ憂ふべき悲むべき状態にある。何故に斯かる結果を生じたのであるかと申すと、これには種々の事情が存する。その事情を明かにする爲には、先づ概括的に獨逸國粹社會黨の事を申し上げるのが便宜であらう。彼のヒットラーが政權を把握して以來、過去二年間に於ける獨逸政治上の變化は驚くべく烈しいものであるが、ヒットラー自身、議會に出て、政府は四年間に、革新をやり遂げるつもりで議會から全權を貰つたが、既に三分の二の業績を挙げた、残る所は只三分の一である、と公言した通りに、獨逸の國粹社會黨は確に大成績を挙げ得たのである。其の成績とはどんなものであるか。

第一には民族主義の斷行である。獨逸國粹社會黨が最も重きを置いてゐるのは此の民族主義であつて、其の政黨が會て發表した二十五箇條の政綱中、六箇條までは民族の事に關係してゐる。それは獨逸民族は世界の何處にゐても祖國の爲に結合せねばならぬ、又獨逸は一族によつて出來てゐなくてはならぬ、と云ふやうな主義の上に立つたもので、従つて、獨逸の立法は獨逸民族の力によつて成らなければいけない、又、獨逸民族のみが國を成してゐるのであるから、外國人は謂はゞお客に過ぎないとする。故に、民族國家を守り立て、國利民福を圖る爲に必要があれば、異民族即ち外國人は出て貰はねばならぬと云ふ結論が導かれて來るのであつて、これが獨逸の猶太人排斥の原因である。何となれば獨逸民族に屬しないもので而も最も多く獨逸國內に居るのは猶太人で、其の數は六千萬人中の六十萬人即ち百分の一に上つてゐるばかりでなくそれ等は皆社會上の優位を占めてゐたからである。その外になほ一つの重要な原因がヒットラー個人に關係して在る。ヒットラーは十七八歳の頃に、建築家になるツモリで、維納でペンキ屋をしてゐた、それは其の時既に彼が兩親を失うた爲に勞働して自活する必要があつたのと、天性畫才があつてスケッチなどを描く器用さを持つてゐた爲とであるが、當時の維納は、十九世紀來歐洲文化の旺盛時代にあつて頗る華麗を極めてゐた。愛國心に燃え立つてゐる此の少年建築家は、初め此の維納の隆盛が専ら獨逸人の力に依ると信じてゐた所が、段々調べて見ると、立派な邸宅を構へて重要事業に携はつてゐる者は皆猶太人である事を知つて、驚くよりも憤慨した。そして「獨逸の文化は猶太人の下敷になつて蹂躪されてゐるのだ、獨逸人は自分等の力で之を排除せねばならぬ」と考へた。——と云ふ事が、彼の著書に出てゐる。此の少年時代の初一念が、後年のヒットラー麾下の獨逸國粹社會黨をして烈しい猶太人排斥の態度を採らせたのである。ところで斯うした現代獨逸の民族主義は、それが國內的な運動に止まる限り、格別他國の問題と

はならない性質のものであるが、近隣の諸國に散在してゐる獨逸人も、此の民族主義によつて齊しく祖國の爲に結合すべきものであると云ふ事になると、少からぬ獨逸人を其の國內に包容してゐる近國にとつては心配の種であつて、殊にチエッコ・スロヴァキア、スイツルの如きは大なる脅威を感じ初め、それが根本で國際關係が紛糾し、獨逸が孤立の状態に陥つたのは是非もない次第であつた。

第二は尙武の氣象である。一昨年あたり、獨逸政府當局の大政政治家等が方々でした演説の速記などを見ると、「國民よ、出でて戦へ」、「出でて敵たふ者を打ちのめせ」と云ふ強い調子で叫ばれてゐる。これ亦佛蘭西の如く獨逸と境を接し、到底一國だけの兵力では之に對抗の出来ない國にとつては、烈しい脅威を感じるわけで、乃ち其れや此れやで獨逸は國際關係上甚だ不利益を招いてゐるのである。併し一方國內的には、寧ろ好結果を來してゐる。最近數年間に獨逸の青年は墮落してゐた、それは一般の趨勢と云つてもよかつた。ところが政權が國粹社會黨の手に移つて以來、凡て男子は一定の年月間強制勞役に服すべしと云ふ命令が出て、土木工事に従事せしめられ、精神訓話の外に、肉體上の訓練をも與へられ、一同粗末な制服を着け、隊伍を組んで六箇月間を暮らす事となつた。これは國民の志氣を一振させる上に効果があつたばかりでなく、體育上にもいゝ事であつたに相違ない。その上に又、例の二十五箇條の政綱の中には、利子の奴隸になつて生活してゐるのは耻かしい事である、人間は働かねばならぬ、一度も勞働の體驗を持たないのは人間味を知らぬものだ、と云ふやうな事が掲げられてゐる。これなども實に立派な精神の表現であつて、徒食者に對する頂門の一針であるが、餘りに其の言ひ方が強激である爲に、國際感情を不良にした。今日なほ英吉利・佛蘭西等では獨逸の態度が問題視されてゐるのは、主として其の挑戰的な烈しい調子が禍してゐるのである。

第三の特色は中央集權的な指導者主義である。昔の獨逸は聯邦組織であつて、共和國になつてもやはり聯邦議會に大きな權限が與へられてゐたが、ヒットラーはそれを止めたいと云ふ考へがあつて、一昨年五月、私が會見した時にも、彼は其の事を私に告げた。それで私が、日本は既に明治四年に中央集權を實現したと話す、東洋の事に知識の無い彼は、珍しさうに感動して聽いてゐたが、其の一ヶ月半後に至つて遂に實行した。これ等は明治天皇の御政績と關聯して、注意すべき事實の一つであらう。今日の獨逸は二十二縣に分たれて、從來の聯邦國は無くなり、司法權も中央政府の手に收められ、立法の方面でも、各聯邦議會は、一昨年春に解散させたりで再選舉をさせないから、自然消滅の形である。同時に又今では縣會も無くなつたから、三權共に完全に中央に集まつた形である。これは即ち前に云つた指導者主義 *Führer prinzip* の現れであつて、國民が大勢寄つて相互に議論するのは所謂衆愚の言で何の役にも立たない、それよりも指導者の言ふ事の方が立派なのであると云ふのが其の根本の主張である。即ち一般産業に就て言ふと、商業・銀行業・保險業・農業・手工業の全體に通じて、勞資の階級闘争を止めさせ、一律に指導者の命令を仰がせる事にした。即ち企業者も従業員も同等の地位に立つて皆、指導者の言葉に聽従させる事にした。殊に勞働者に對しては、階級闘争を止めねば我々の國家が不利益を被ると云ふ建前から、組合を解散させて、勞働戦線 *Arbeits front* を全部統制した形のものにし、其の上にヒットラーが立つて、全員に命令を下した。そして筋肉勞働者以外の官吏とか法人の従業員などまでも、これ亦知能勞働者であると云ふ理由で加入させた。その様な次第で、獨逸でのメーデーは國祭日中の國祭日となり、全國を擧げて此日を祝ふ事になつた。此の意味に於て獨逸のメーデーは階級闘争の表象ではなくして階級上下の闘争を排して皆が一つの纏りとなつた表象と變じたのである。

經濟界も勿論全部指導者の言に聽從して、今では生産額から輸出入額等までも政府の監督下に屬してゐる。それで獨逸國內ではヒットラーの事を指導者宰相 *Führer und Kanzler* と云ひ、外國人に對しては獨逸宰相 *Deutsch Kanzler* と稱する。曾ては大統領が獨逸國を代表したのであるが、ヒンデンブルグの死後に、ヒットラーが事實上大統領の職能を兼攝して以來、その名義を廢した。大統領の名は時の高德者にして初めて受くべきもので、今は不適當であると云ふのが、其の表面上の理由であつて、とにかくヒットラー以來は、獨逸宰相が同時に元首であると云ふ事になつたのである。即ち今日の獨逸では、宰相たるヒットラーが、民族主義を旺に唱へ、尙武の精神を養ひ、中央集權制度を取つて、*Führer* となつてゐるものである。こんな事は獨逸の歴史に珍しい事で、帝政時代カイザーの勢力は盛なものであつたが、國は幾つもの聯邦に分れてゐたし、なほ議會と云ふものがあつて、其の操縦には流石のビスマルクさへ頭を悩ましたと云はれてゐる。然るに今の獨逸では、中央議會が僅かに残つてゐるだけで、其れも召集されて後約二時間の施政演説が終ると直ちに解散されるのであるから、全くの獨裁政治である。

二

獨逸の政治上の現状は以上の如くであるが、どうして其れを獨逸人たちが黙つて視てゐるのかと云ふと、其處には突撃隊の力が強く働いてゐる。元來獨逸國粹社會黨の主義は、一國一黨主義であつて、二つ以上の政黨を一國が持つ理由はない、そんな事をすれば政論が多岐になつて國政が圓滑に進まないと云ふのである。それで斷然その一國一黨主義を實現させる爲に、一昨年一月から八九月にかけての國民革命が起されて、S・A即ち突撃隊が其の事に働いた。此の

突撃隊と云ふのは、國粹社會黨中の一團結で、最初ヒットラーがミュンヘンで運動を開始して演説會をやつてゐた頃は、反對黨が色々邪魔立するのを防ぐ爲に、腕節の強い連中を集めて對抗的に場内整理に當つてゐたものであるが、それが時と共に次第に大きな勢力となつて、ヒットラーが政權を取つた頃には既に百萬の多勢に達し、次いで二百五十萬に増殖し、愈々ヒットラーが國權を握つて後には、其の維持費が國の豫算にまで上される事となつた。何れも一定の制服を着てゐて外觀は普通の兵士と同様である。これが今では全國に擴がつて、非常な勢力を占めてゐるのであるが、苟くも國粹社會黨の政治に反對する者があれば、腕力に訴へて之を叩き潰した。即ち第一には共產黨の事務所に躍り込んで幹部を捕縛し、其の建物を占據し、次には各地の社會民主黨事務所を襲うて之を打倒し、又、方々で職工組合を潰して廻つた。凡そ是等は皆一國一黨主義を貫かうとする上からの行動である。それで、國粹社會黨に縁の近い者でも、苟くも其の主義に反する以上、やはり之を潰滅させた。例へば國憲黨の如きは、明かに右翼に屬する一黨派であつたが、これもS・A隊員が一人々々勧誘して自然に潰させて了つた。斯う云ふ状態であるから、何人も獨逸國內ではヒットラー一黨に對して反抗の聲を擧げる者はないのである。

一方言論の上でも、宣傳省と云ふものがあつて、これが一切の指導をする。新聞雜誌は勿論の事、通信社から送り込む通信記事も、不都合と認めるものは出させない。故に畢竟する所は政府側一色の Correspondence で、どの新聞雜誌を見ても同じ事しか出てゐない。そこで結局どれか一種だけを見ればよいと云ふわけで、其の結果、今まで全國で百以上もあつた新聞が倒れて了つた。學問研究・藝術の發表なども皆、宣傳大臣主宰の中央文化院が同じ趣旨で指導に當つてゐるから、これ亦苟くも黨是に反するものは、それが假令純然たる科學的研究であつても許されない。例へば優生

學の如きものは、各民族を混同して優良種を作ること、研究する學問であるから、これは民族主義の立場から反對する。美術の如きも其の通りであつて、繪畫にしても彫刻にしても、それを出陳して果して中央文化院の意に適ふか叱られるかと分らないから、躊躇すると云ふ風で、展覽會などは憐れな光景である。其の他文藝、映畫、演劇皆然りで、一嚴重に檢閲した上、國粹社會黨の主義に副はないものは發表を許さない事にしてゐる。

三

併し此の様な狀勢は、昨年ヒットラーが黨内領袖株の一部を射殺殺戮してから稍變化を來した。元來突撃隊を組織する時には急に人を集めたため、その中には幾分如何はしいものも交つてゐた。それで黨が勢ひを得ると、それ等の不良分子には其の勢ひに乗つて望まぬ行動に出た。それから今一つにはヒットラーの在野時代、即ち諸方で盛に熱烈な演説をして廻つた時代には、随分思ひきつた自由な説を述べたが、愈上施政の局に當ると、必ずしも隊員の考へ通りに進まない。そこで「ヒットラーは變節した、速かに本來の面目に戻せ」と云ふやうな事を唱へて反抗の態度を採り出した。是等がヒットラーをして、涙を呑んで味方を殺させた原因であつて、即ち昨年六月三十日、突然先手を打つて、約十八人程の領袖株の隊員を逮捕させ、之を死刑に處したのである。此の事があつて後、ヒットラーの立場は甚だ堅固なものとなつて、其の引率する十萬の國防軍は、完全にヒットラーの命令下に服従するに至つたかと思へたが、併し必ずしもそれは十分な安定を意味しなかつた。獨逸國內に於ける有力な團體の動きに注意して見ると、資本主義・帝國主義の方面を取る舊權力階級者、國粹社會黨、ヒットラーの爲に巨額の資金を獻納した輩、と云ふやうな者が、三巴にも

四巴にもなつてゐる。それで、如何にヒットラーが國粹社會黨の政綱に従つて政治を實行しようと思つても、自由な刷新は出来ない。こゝに彼の大きな悩みがある。そこで一昨年之主張は、昨年之聲明と異なり、昨年之聲明は最近之主張と異なる形を呈して来る。例へば宗教の如きも、國粹社會黨本來の考からすると、南方外來のもので、北方民族たる獨逸人固有のものではない。そこでヒットラーとしては寧ろ之を追出したのであるが、長い間に根を下ろしてゐる信仰をどうする事も出来ないで、新に僧正を任命して、自國獨特の色彩を持つた基督教を建立させ、大に辣腕を振うた。然るに一昨年から昨年にかけて激烈な反對が起り、其のまゝ押切ることが出来なくなつて來たので、昨年十一月頃政府は突然聲明を出して、信仰界の事には當分手を觸れないと言ひ出した。斯う云う風に一昨年来ヒットラー一黨之主張は、次第に變化をしてゐるのであるから、今後の獨逸の動きはどう成るか、それらは以上の狀勢を考へに含んで慎重に見てゆく必要があらう。

最後には我が日本に對する獨逸國粹社會黨の態度であるが、これは大體に於て好感的である。會て滿洲事變の起つた當初には、伯林で亂暴をした事もあつて、其の後も餘り好感を抱いてゐないやうであつたが、今日では日本に對して一種の愉快を感じてゐる。それは何の爲であるかと云ふと、只何となくさう成つたといふ漠然たる氣持でしかないが、とにかく復古氣分といふか、獨逸も基本精神に戻らねばならぬと云つたやうな點で、日本との精神的相似を感じ、尙武的・進取的な日本精神に一味の懐しさを覚えるのである。會て獨逸國務大臣の或る一人は、日獨兩國の神話を比較し日本の素戔鳴尊と獨逸のジグフリードとは兄弟でないか、と云つた事もある。其の他共產主義を排除する點、國交的立場が類してゐる點にも政治上共通を感じてゐる。従つて貿易上でも日本に對しては著しく緩和的である。

斯う云ふ風に、日獨の兩國は互に相似た點を持つてゐるのであるが、必ずしもその全部が同一なのではない。即ち中央集權制を取つてゐる事、尙武精神を鼓吹して國民生活の健全化を圖つてゐる事は、確に現在獨逸の善い所であり、それ等は我が日本とも相似たのであるが、亂暴な指導主義や、極端な民族主義は、我が日本の採らない所である。

明治天皇の御集を拜し奉ると、多くの尊い御製の中に

よきをとり惡しきをして、外國に

劣らぬ國になす由もがな

と仰せられてあるが、此の御廣大な大御心に比べ奉ると、獨逸の民族主義は餘りに狭いものである。又國家的指導精神に就ての御製にも

志す方こそかはれ國をおもふ

民のまことは一つなるらん

とあつて、これ亦頻に戦闘ばかりを強調し過ぎる獨逸の民族主義とは懸絶的である。なほ獨逸では又、指導者主義を振り廻して、高壓的に凡てを押しつけようとするが、我が日本では、畏くも

思ふ事思ふがまゝにいひ出づる

幼ごころや誠なるらん

との御製を拜し奉るのである。我々はそれにつけても、有難い皇室の御下に國民として生活し得ることを無上の幸福として熟々と考へるのである。

獨逸も大戰前までは、意氣軒昂たるものがあつて、政治に、産業に、學問に、陸海の軍備に何れも歐洲の一等國として立派な貫録を具へ、國民の綱紀も緊つて見えたが、今や往年の華麗を誇つたカイザーの王宮も荒廢し、精神的にも戰前獨逸の旺盛な氣分は喪失してゐる。我々は其の有様を目前に見るにつけても、明治天皇以來御歴代の英明なる聖天子を戴き奉り、國民の意氣は大戰前にも増して緊張してゐることを思つて、大日本帝國の立派な國柄を一層強く感ずる者である。（文責在筆者）

海上雲遠

小泉來兵衛

しらにぎてなびくかと思ゆ海原の

浪路はるかに雲のたゆたふ

新間 智啓

とほつ沖雲のいろこそめでたけれ

日出づるくにの春のあけぼの